

東京文化会館音楽監督の就任について

東京文化会館では令和3年9月1日より、音楽監督に作曲家でピアニストの野平 一郎 氏が就任することとなりました。

指揮者やプロデュース活動、さらに音楽教育にも携わり、広く日本の音楽文化に多大な貢献をしてこられた野平氏とともに、鑑賞機会の提供や若手音楽家の輩出・育成に尽力し、社会的課題にも取り組みながら、「音楽・舞台芸術の殿堂」としてあらゆる人々が感動を分かち合える劇場を目指してまいります。

■野平 一郎 氏メッセージ ～音楽監督就任にあたって～



©YOKO SHIMAZAKI

東京文化会館は、私にとって音楽を志したときから幾度となく通い、いろいろな音楽を聴いてきたとても親近感のある場所であり、ここで得たものが私の成長に欠かせない肥やしになっています。東京文化会館は音楽家を育てただけでなく、クラシック音楽の新しい聴衆をも生み出したホールだと思っています。

東京文化会館の音楽監督に就任するにあたって、いくつかヴィジョンがあります。

まずは、年代的にも音楽ジャンルのにも幅広いお客様にいらしていただけるようにしたいと考えています。若い人も音楽のすばらしさを体験できるよう、“世代循環”とでもいうような、われわれが伝えていかなければならないものがあると思います。

また、最も東京らしいホールとして、東京の持つローカルなものをグローバルに発信していく。音楽世界を豊かにできるような多様性と新しい価値観なども見出して、東京文化会館は常にアクチュアルなものが動いている、と実感していただけるような場所にできればと考えています。

東京文化会館は音楽資料室やリハーサル室もある複合的総合的な施設ですので、この機能を十分に発揮できるようにしたいと考えています。

演奏家としても作曲家としても自分が体験的に東京文化会館から得てきたものを、若い世代の聴衆をはじめ音楽文化に親しむすべての皆さまに受け渡していきたいと思っています。

○ 東京文化会館に関すること

生活文化局文化振興部企画調整課 電話：03-5388-3158

○ 音楽監督就任に関すること

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館

電話：03-3828-2111（代表）

<野平 一郎 氏 プロフィール>

のだいら いちろう

1953 年生まれ。東京藝術大学、同大学院修士課程作曲科を修了後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。作曲・ピアノ・指揮・プロデュース・教育など多方面にわたる活動をおこなう。

ピアニストとしては内外のオーケストラにソリストとして出演する一方、多くの内外の名手たちと共演し、室内楽奏者としても活躍。古典から現代までそのレパートリーは幅広い。近年はコンチェルトの弾き振りや、自作自演を含めた指揮活動も多い。

140 曲に及ぶ作品の中には、フランス文化庁、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、IRCAM、国立劇場等国内外からの委嘱作品があり、いずれの作品も圧倒的な成功を収めた。また、100 枚をこす CD をリリースしている。

第 13 回中島健蔵音楽賞(1995)、第 44 回、第 61 回尾高賞、芸術選奨文部大臣新人賞、第 11 回京都音楽賞実践部門賞(1996)、第 35 回サントリー音楽賞(2004)、第 55 回芸術選奨文部科学大臣賞(2005)、日本芸術院賞 (2018) を受賞。2012 年春、紫綬褒章を受章。

現在、静岡音楽館 AOI 芸術監督、東京藝術大学名誉教授、東京音楽大学作曲科教授。芥川也寸志メモリアル・オーケストラ・ニッポニカ ミュージカル・アドバイザー。日本フォーレ協会会長。日本ベートーヴェンクライス代表理事。2021 年より 3 年間、モナコ・ピエール皇太子財団音楽評議員を務める。2022 年開催仙台国際音楽コンクールのピアノ部門審査委員長。

■ 野平一郎氏 出演予定公演

プラチナ・シリーズ第 2 回 野平一郎・堀 正文・堤 剛 ピアノ・トリオ

～日本が誇るレジェンド・トリオ～

日 時：令和 3 年 11 月 20 日 (土) 15 時開演

場 所：東京文化会館小ホール

出 演：ピアノ 野平一郎 / ヴァイオリン 堀 正文 / チェロ 堤 剛

曲 目：ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第 5 番 へ長調 Op.24 「春」

(野平一郎/堀 正文)

シューベルト：アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D821 (野平一郎/堤 剛)

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第 7 番 変ロ長調 Op.97 「大公」

(野平一郎/堀 正文/堤 剛)

チケット発売：令和 3 年 8 月 21 日 (土)

■ 関連 URL <https://www.t-bunka.jp/>